

受賞	会員番号	ペンネーム(敬称略)	本の題名/著者/出版社	どんな人に	おすすめポイント
びぼちゃん賞	なし	勲	哲さんの声が聞こえる/加藤登紀子/合同出版株式会社	自治体のリーダー	本書は命がけでアフガニスタンの国へ貢献した内科医師、中村哲さんと、歌手の加藤登紀子さんとの交流を著作した実話である。彼は千九百八十四年、ベジャワールのミッション病院へ赴任。ハンセン病患者をはじめ内戦で傷ついた難民など過酷な条件の中必死に活動に専念。六年後の二千年、大干ばつを機に彼は緑の大地計画を発表し重機の免許を取得、井戸掘りと灌漑(かんがい)用水路の建設を開始。その後、大洪水で用水路は決壊したが彼の指導で補修は地元の資材を使用、二千十四年には黒砂糖、オレンジの生産に成功、周辺地域は緑の木々に被われているという。改めて本書の表紙を飾る写真は素晴らしい。極めて厳しい戦乱の世の中の危機と困難を潜り抜けた人には思えない哲さんと、よき理解者の登紀子さんの表情、思わず自らの頬が緩んでしまいそう。国と国民を愛し護ろうとする決意と行動、本書から学ぶことは多い。
	なし	はあちゃん	旅育BOOK/村田和子/日本実業出版社	お子さんとお孫さんと旅行したい方	“忙しい現代、親子の絆は旅で育む。” 仕事や家事に追われ普段の生活をこなす事で精一杯な中、未来ある子供たちに何ができるのかと考えたときに出会った本です。旅行前後、旅行中のちょっとした工夫で、子供にとって豊かな経験へと変わるヒントを教えてください。例えばゲームやスマホについてお互いを尊重した提案もあり、普段の生活からでも活用できることも書かれています。 “記憶を通して、未来に花が咲く「種」を植えることに似ているのかもしれない。” 小さな頃の思い出を本人は忘れてしまったとしても、写真や思い出を振り返ることでどんな経験も無駄ではないと背中を押された心に残る一文でした。子供たちの未来への投資になる体験を、子供が1番好きな家族と過ごすことは必ずプラスになる！と思わせてくれる本です。旅先がいつもの場所になってしまいがちな方や学校のラケーションの参考にもなるかと思えます。お子さんと一緒に旅を考えることで素敵な思い出ができるはずなのでおすすめです。
	なし	ユクラ	しあわせのパン / 三島有紀子/ポプラ社	日々悩んでいる人	私がこの本を読んでお勧めしたいのが、実らぬ恋に未練を抱いている女性、香織がカフェ「マーニ」を訪れる話です。彼氏に旅行をドタキャンされ、最悪の思い出で適当に飛行機に乗ってたり着いたのが月浦でした。最初は、放っというて欲しいと思っていましたが、偶然カフェに泊まっていたトキオという青年と、カフェの店員のりえと水編のお陰で次第に心を開きます。特に心に残るのは、トキオの「何で電車の路線は簡単に切り替わるのに俺の人生は…」と嘆くシーンです。東京に行きたくても、変わらなくても行けない自分に焦りを感じているところが、とても心に響きます。私自身もよく、本を読んでいて、どうして物語の主人公は簡単に変われるのに、自分ばかりかかっていても行動に出せないのだろうか、と思います。そんな心情がどこか自分と重なっていて、とても共感できました。また、そんなトキオや恋に悩んでる香織に温かいパンと珈琲をくれる、カフェ「マーニ」も素敵だなと思いました。現代、人間関係に悩む人も多く、カフェ「マーニ」のように、何気ない日常を感じさせてくれる存在があると安心すると思います。また、知らない人だからこそ話せる事もあると思うので、是非今悩んでいる人、もちろんそうじゃない方もこの本を読んでみて、何か気づきかけや、手を差し伸べてくれるような心の支えになって欲しいです。
	なし	ごとさん	お探し物は図書室まで/青山美智子/ポプラ文庫	これからの人生に希望を感じられずに生きている方。人生の分岐点にいて、迷われて生きている方	人生において、たとえ挫折感や失望感を抱いても必ず自分に「光らせるものが眠っていること」を教えてください。自分自身の行動で広げていけるものだ伝えてくれる勇気を貰える本。 各章に必ず登場する司書の「小町さゆり」さんのキャラクターがとても秀逸。見た目はブスツとして近寄りたけれど、心は仏で太陽のような温かさを持つ彼女。人を「見えない手」で後押ししてくれる雰囲気、心に癒やしてくれる、行動する力を主人公たちが貰って変化していく様子が見どころです。
	なし	ami	大切なことに気づかせてくれる33の物語と90の名言/西沢泰生 / PHP文庫	全対象 ちょっとした癒しが欲しい人 本に興味があるがどれを読もうか迷ってる人	1つのエピソードが短いのでサクッと読める。 「シゴト、人とのつながり、生き方など」ジャンル別で分かれていて、好きな所からスタートできる。 「体を温めると心も緩むように」 そんな感じで読むと、心が温かくなるエピソードが収録されています。ほっこりします。
	なし	ami	深紅/野沢 尚/講談社文庫	名作を知りたい人 人間心理に興味ある人 どちらかというと感情移入する方	とある殺人事件で生き残った少女と、殺人を犯した親を持つ少年の葛藤と交流を描いたお話し。 殺害シーンの情景や、登場人物の悩みや立ち上りがよく様子の心理描写が、深くそして生々しい。 家族を奪われ怒りと悲しみを抱きながら、それでも憎み続けるのか許すのかという心の内や、殺した親を持つ側の周りの目から逃げ続けたい気持ちと変わりたい気持ち。 2人が交流していく中で、変化の様子が丁寧に描かれていて物語に入り込みます。 「私は忘れない。でも忘れないことと、憎み続けることは違う。」 許しというのは、誰か他のためじゃなくて自分のためであるのでは？他の存在について自分も考えた作品です。
	15963	しょうこ	わたしが「わたし」を助けに行こう/橋本翔太/ サンマーク出版	子供の頃のモヤモヤを大人になっても解決できない人へ	心理カウンセラーの先生が書かれた本です。YouTubeで観る穏やかな語り口そのままの優しい文体で書かれていますが、内容はハードでした。長い間鬱々としている、悲しみ続けている、または怒り続けている。理由はさまざまですが、心に秘めたマイナスの感情は、多くの人が持っていると思います。実生活へも悪影響を及ぼすそのマイナスの感情が、本当はあなたを守っているとしたら…？半信半疑ながら読み進めていくうちに、自分の心の奥底にある弱い部分と向き合うことになりました。それは苦しい作業でした。けれども本書は、明るい未来へ導いてくれる一冊だと思います。心の中でずっと私を守ってくれていた「ナイトくん」に、わたしは大人になったからもう大丈夫だよと伝えたら、気持ちはずっと軽くなりました。
びぼちゃん賞	なし	てんびん座	しずく/西加奈子/光文社	寂しさを感じている人へ	6篇の短編集。いずれにも「女性二人」が様々な関係性で登場する。幼なじみ、大家さんと借主、女性と恋人の娘、旅行者と地元女性、雌猫二匹、母娘。表題の『しずく』の「女性二人」は雌猫二匹。飼主の都合で猫の運命は翻弄される。でも本書の中の雌猫の記憶は短く、離れ離れになった哀しみは続かない。楽しさが永続しないかわりに、辛い記憶も長続きしないのだ。この本を読むと、みんな寂しいんだと思う。そしてそれは記憶のせいかもしれないと思う。たとえば『影』という短編のセリフ、「皆から自分という人間を決めつけられるのは、恐ろしいことです。」自分にも似た記憶があると慨嘆したくなるけれど、自分は他人を決めつけたことはなかったか。自身の記憶の海に潜ってみれば、目を背けたくなるような事実がひょっこり顔を出す。記憶とはやっかいなもの、時に執着や悩みを生む。だが、それにより生きていけることもある。自分の忘れかけている「記憶」が、きっと登場人物の誰かと呼応し蘇る。その記憶は、遠慮がちにあなたを包み込んでくれ、そしてあなたの背中をそっと押してくれる。もしかしら「しずく」は涙の象徴だろうか。涙活をして、寂しさから立ち上がりたい人へ。
	15963	しょうこ	わがままりスト/山岸洋一/イースト・プレス	「いつか」叶えたい夢がある人へ	「わがままりスト」は夢を叶えるリストです。行きたい場所、食べたいもの、どんなわがままな望みを書いてOK！という本書の教えどおりに、わたしは「生きた恐竜を見たい」と書きました。さすがに突拍子もないかなあと思っていた数ヶ月後、その夢は、東山動物園にやってきましたコモドドラゴンを見ることで叶ったのです。わがままりストを作るのに必要なものはノートとペンだけ。気軽にスタートできるのですが、その効果は絶大でした。続けるうちに、どうして夢が「叶ってしまうのか」も分かってくる。いつか叶えたい夢があるけれど、その夢が遠くてぼんやりとしか見えないう人へ。この本を読んで、わがままりストを試してほしいと思います。
	5403	だやこ	日本美術・この一点への旅/山下裕二/集英社	旅の理由を探している人 日本のことをもっと知りたい人	著者が選りすぐった、各都道府県にある一見の価値のある美術品が載っています。先日、豊田市博物館でも展示されていた新潟の国宝土器も掲載されていて、この間は土器がこちらに来てくれたけど、今度は土器の故郷に私たちが足を運ぶのも、その作品のルーツを想像したり感じたりできるので、趣があっていいかと思えます。それに加えて、縄文のロマンを雄大に感じられる、山梨から長野の土器や土偶の紹介もとても魅力的です。また、本全体を読みすすめていくと、地域や時代を越えて美術品の共通点が見えてくるような気もするので、不思議で面白いです。旅をしたいけど理由がなくて探しておられる方、縄文時代から現代に至るまでの日本の歴史を美術品で触れたい方に、ピッタリの一冊です。読んでみて実際に旅してもいいし、行けない場合でも旅した気分が美術品に想いを馳せるのもいいと思います。
	15357	小百合	恋とか愛とかやさしさなら/一穂ミチ/小学館	性犯罪×恋愛小説を読みたい人へ	プロポーズされた翌日、恋人の啓久が盗撮で捕まった。まさに天国から地獄とはこの事だ。 交際歴5年、30歳の新夏がどう決断を下すのか、また自分が新夏の立場だったらどうするか自問自答しながら読み進めた。完璧な人間なんていない事はわかっている。誰もが不完全で、大なり小なり過ちを犯す事はあるだろう。信じること、許すこと、愛すること、言葉で言うのは簡単だけど、一度心に根付いた不信はそう簡単には消し去れない。最も不快感を感じたのは、啓久の口から出た「コスパが悪い」の一言。犯罪そのものも悪だが、想像力の欠如こそが最大の悪。
PIPO大賞	8615	たっきー	N(エヌ)/道尾秀介/集英社文庫	夢中になって本の世界に没頭したい人 家族や友達がそれぞれ読んで感想を言い合えるので団欒したい人	Nは全六章からなる短編小説のようですが、どの章から読むかによって物語が変わってくるという構成の小説になっています。読み方は人それぞれなので物語は720通りにもなります。私は家族で読み回していたので、それぞれが別の章から読んでいたこともあり、「それは違うかも」とか「言わないで」とかそんな風に話しながら読み進められたのが面白かったです。それぞれの物語の主人公が懸命に生きて、生き方の答えや意義を考えさせています。幸せとは何か、人を信じたり、疑ったりしながら最後は殻を破ってまたひとつ成長する姿が見れます。この六つの物語が絶妙な按配でつながり、最後は人々に希望を抱かせてくれる物語になっていると思います。
	15357	小百合	禁忌の子/山口未桜/東京創元社	心震えるミステリーを読みたい人へ	話題になるのも頷ける。デビュー作にしてハイクオリティ。物語は、身元不明の溺死体が救急医・武田の元に搬送されて来た場面から始まる。死体は武田と瓜二つの顔を持っていた。冒頭から一気に引き込まれた。旧友で医師の城崎と共に調査を進める中で見えて来る真実に声を失う。巧みなミスリードと緻密に張られた伏線、後半は息を詰める展開で犯人と動機が判明した瞬間は驚愕のち慟哭。思いもよらぬ真相に切なさが入り込めた。生殖医療の意義を問いつつながらミステリーとしても秀逸。医療×ミステリー×人間ドラマ。第34回鮎川哲也賞、満場一致に納得。
	15357	小百合	兎は薄氷に駆ける/貴志祐介/毎日新聞出版	復讐劇が好きの人へ	いつ割れてもおかしくない薄氷の上を駆ける主人公・日高英之の復讐を応援し続けた。15年前に起きた殺人事件で、無実を訴えていた英之の父は、連日連夜に及ぶ違法な取り調べで犯人に仕立て上げられ獄中死。英之は身を呈して無謀とも思える戦いに挑む。被疑者の言葉には一切耳を貸さず、圧力と脅迫、暴力で強引に自白を迫る警察や、検察の物言いに腸が煮えくり返った。法廷シーンは圧巻。冤罪を晴らす為に綿密な計画と行動力で猟犬に立ち向かった賢い兎の行く末を見守り続けた。正義とは言えない英之の復讐も、冤罪被害者の無念を思えば共感出来る。
	15357	小百合	森にあかりが灯るとき/藤岡陽子/PHP研究所	介護現場のリアルを知りたい人へ	とても素晴らしい作品だった。『外から見ているだけではわからないことが、介護の世界には山ほどある。』作中に出て来るこの一文が全てを物語っている。私達は想像する事は出来る。けれど、この物語を読むと自分の考えの甘さを突き付けられる。介護される側の孤独、介護者の苦悩、知れば知るほど胸が苦しくなり何度も涙が込み上げた。特別養護老人ホーム「森あかり」で介護士として働く星矢の誠実さに心が洗われる。誰もが平等に年を取る。他人事と思わず皆が真剣に向きあう事の大切さを教えてください。たくさんの人に手に取って欲しいお薦めの一冊。
	15357	小百合	きやかの寿司/森沢明夫/角川春樹事務所	読後感がいい作品を読みたい人へ	なんて幸せな読後感。「ハンバーグの石」「自転車デート」「親馬鹿とジジ馬鹿」「ツンデレの涙」海辺の町の名店『夕風寿司』を舞台に繰り広げられる四話収録の連作短編集。森沢作品にはいつも泣かされる。こらえていた涙が第三話で溢れ出し、最終話で涙腺崩壊。人生は思い通りに行かない事だらけ。悩みや悲しみを抱えた人達が、夕風寿司の大将・きやかさんや、この店に集う常連さん達との出逢いで前進する。辛い経験をして来たからこそ、他人の痛みを寄り添う事が出来る人達の優しさに胸一杯。一期一会の大切さを噛み締めながら温かな余韻に浸る。

受賞	会員番号	ペンネーム(敬称略)	本の題名/著者/出版社	どんな人に	おすすめポイント
	15357	小百合	笑う森/荻原 浩/新潮社	エンタメ小説を楽しみたい人へ	ああ面白かった。 タイトルと装丁から、もしや荻原さんのホラー？なんて思っていたら良い意味で裏切られた。 5歳のASD児・真人が母親とはぐれ神森で行方不明になる。 無事に保護されるが1週間もの間、真人はどう過ごしていたのか。 同時期にこの森に入り込んでいた4人の男女と真人との関わりが何とも言えない面白味を出している。 楽しいだけでなくSNSの誹謗中傷や家庭内暴力、大人の責任など「罪」の部分もきっちり描かれていて胸がすく。 テンポ良く軽快に展開していくので450頁の長さもなんのその。 真人の大冒険と成長を見届けて欲しい。
	15357	小百合	スターゲイザー/佐原ひかり/集英社	熱い青春物語を読みたい人へ	「サマーマジック」「夢のように踊れない」「愛は不可逆」「楽園の魔法使い」「掌中の星」「スターゲイザー」6話収録の連作短編集。 『人間みたいに生きている』を読んで以来、大注目している佐原さんの最新作。 最高に良かった。 メジャーデビューを目指す6人の通称「リトル」達の物語。 それぞれの人物の書き分けが秀逸。 彼等が見せる笑顔も、人知れず苦悩する姿も、全て脳内映像で再現された。 青春×アイドル小説に関心がない人達にも刺さる言葉がたくさん散りばめられている。瑞々しい感性で描かれた本作は最終話で涙腺崩壊。 もう推すしかない。
	15357	小百合	カラフル/阿部暁子/集英社	読後感がいい作品を読みたい人へ	心の中を爽やかな風が吹き抜ける。 前作の『金環日蝕』同様、本作もひたつくりの場面から物語はスタートする。 本作の軸となる人物は、車いすユーザーの少女・渡辺六花と怪我がきっかけで陸上を辞めた荒谷伊澄。 同じ高校、同じクラスの新生となった二人。 気が強い六花と、そんな六花にたじろぐ伊澄の関係が変化していく様子から目が離せない。 青春小説でありながら、人が社会で共生していく為に必要、かつ不可欠な事を伝えてくれる。 自分を大切にしつつ他者の気持ちをわかろうと努力する事、想像する事。 皆が心掛ける事で世界はカラフルに彩られる。
	15357	小百合	わたしの知る花/町田そのこ/中央公論新社	壮大な物語を求める人に	心の襲を震わす愛おしい物語だった。 人が人を語る時、自分のフィルターを通した狭い世界で相手を判断してしまいがちだ。 勝手な思い込みや先入観が事実を歪めてしまう。 この物語の主人公、77歳で孤独死した葛城平の生きざまを追いながら、人が持つ無情さに憤り、やるせなさで胸が詰まった。 平と関わった人達も、皆それぞれに事情を抱えている。 彼らを見つめる作者の眼差しは時に辛辣でありながら本質を突いていて根底に愛を感じた。 誠実で在るが故、苦難の連続だった葛城平の人生。 それでも彼の周りに溢れんばかりの愛が存在していた事に救われる。
	15357	小百合	星を纏む/風良ゆう/講談社	心が震える作品に出逢いたい人に	余韻から抜け出せない。「流浪の月」を読み終えた瞬間の感動が再び蘇った。「汝、星のごとく」続編という事で前作を再読した後手に取る。 風良さんが紡ぐ宝物のような言葉を一字一句、取り零さないように時間を掛け、ゆっくりと読み進めた。 どれだけ多くの言葉を尽くしてもこの感情を言葉で伝える事は出来ない。 自分の人生の手綱を握る事はなんて困難な事なのか。 彼等、彼女らが背負っている荷物の重さと理不尽に共鳴し、胸が締め付けられる。 途轍(とてつ)もなく残酷でありながら幾度も愛おしさに震えた。 夕星を見上げる度、きつこの物語を想い出す。
	なし	ゆうり	ママがおぼけになっちゃった！/さく・のぶみ/講談社の創作絵本	この絵本は3歳くらいの子からみんなにおすすめしたいです。	この絵本は、ママが交通事故で亡くなってしまった話からはじまります。ママはおぼけになって、4歳のかんたろうのことが気になって様子をみにいきます。かんたろうは、おぼあちゃんとおまの話をしています。ママに会えなくて泣いているところは悲しいけど、ママの適当な料理が食べられない話は面白いです。私もママが話しているのと少し寂しいけど、気にせずゲームができることは楽しいです。私が感動したところは、夜中の12時過ぎるとかんたろうが、ママの姿がみえるところ。おぼけになったママとかんたろうが2人で泣いている絵は悲しいです。でも、2人で外に散歩しているところが楽しかったです。最後に「かんたろう、ありがどうね。かんたろうのママで、ママはしあわせでした。」という言葉に感動しました。ママがいなくなってしまうことは、すごく寂しいけど感動する話です。私のおススメの本です。
	なし	ふわり☆	夢をかなえる未来ノート/本田有明/PHP研究所	習い事や中学受験をがんばっている人	夢や目標をノートに書き出すと、なんとなく考えていたことがはっきり見えてきます。どんどん書いていくと、やる気が出てくるすごい方法です。夢がかないます！ぜひ読んでみてください。
	15394	ゆたんぼ	運転者 未来を変える過去からの使者/喜多川 泰/ディスカヴァー・トゥエンティワン	自分はツイていないと思う人、自分を変えたい人、チャンスを掴みたい人	主人公が風変わりなタクシー運転手と出会うことから物語が始まります。 この運転手は人の運を変えるのが仕事で、人生のターニングポイントとなる場所へ連れて行ってくれるのですが、主人公にはなかなか良いことが起こりません。 理由を尋ねると、「運は良い悪いではなく、使うか貯めるもの。ポイントカードと同じで貯まっていなくて使えない。だから、何もせずに幸運を掴むことなどできるはずがない。運がよいように見える人は運を使っているだけ。何をやってうまくいかない時は運を貯めている状態で、いずれ大きな幸運を掴むチャンス。だから、無駄な努力なんてない。」 半信半疑ながら運転手に教わった運を貯める方法を実践するうちに、やがて自分の気持ちの在り方、運命までも変えていくストーリー。読み終わったあと、周りの人への感謝と優しい気持ちがいっぱいになりました。とても感動的で良い本です。
	なし	びぼぼ	交換ウソ日記/櫻いよ/スターツ出版	若者。特に、意見を言うことが苦手な方	この本の主人公・希美は、意見を言うことが苦手な子。学校の人気者の瀬戸山とひょんなことから始まったウソ日記を通じて変化していくところは注目です。 私も意見を言うことがあまり得意なタイプではなく、人間関係に悩んでしまうことが多いのですが、この本を読むと、希美のように変わってみたいと思います。自分の意見を伝えることが怖いことだけど、とても大切なことであり、本当の人間関係を築く上で欠かせないものだと感じています。この本を通して皆さんにはそんなことを感じて頂きたいです！ また、本の中では、希美は好きな音楽の趣味を、笑われてしまうことを恐れて隠しています。最終的に、希美は自分の趣味を言えるのか。そして、瀬戸山とのウソ日記の結末はいかに、楽しく考へるという解説です。お見合い結婚で、交際期間が短く浅い夫とどのように愛を深めるか悩んでいた時、これを読んでまず夫を知ることからはじめました。無意識にやっている人を思いやる行為を言語化してくれたことにより、これらの技術を実践しやすくなりました。 この本の冒頭に、愛することは対象ではなく、能力であるという言葉があります。愛されたいと悩んでいる人は、これを読めばなぜ愛されたいと思うのか、そして愛されるよりも愛することの大切さを教えてもらえると思います。
	15991	滝笛響子	愛するということ/エーリッヒ・フロム 訳:鈴木晶/紀伊國屋書店	愛を求め人へ	愛されたいと思っている人へこの本をおススメします。 原文のタイトルはThe Art Of Loving ー 直訳すると『愛の技術』 愛を心理学の観点から読み解き、さらに愛するための具体的な“技術”も書かれています。 私の心に残ったのは配慮、責任、尊重、知、の愛の4要素です。配慮をすると相手に対して責任を持ち、責任を持つと相手を尊重でき、尊重するためにはまず相手を知ることが必要であるという解説です。お見合い結婚で、交際期間が短く浅い夫とどのように愛を深めるか悩んでいた時、これを読んでまず夫を知ることからはじめました。無意識にやっている人を思いやる行為を言語化してくれたことにより、これらの技術を実践しやすくなりました。 この本の冒頭に、愛することは対象ではなく、能力であるという言葉があります。愛されたいと悩んでいる人は、これを読めばなぜ愛されたいと思うのか、そして愛されるよりも愛することの大切さを教えてもらえると思います。
	なし	ラベンダー	八月の銀の雪/伊原新/新潮文庫	未来に希望を感じたい人	今年はいくつ読んだけれど、どの本をおススメしようかと思いつくまで音もなく静かに降り続く静謐な世界が胸の奥深いところに無限に広がるような気がするのだ。 何の先入観もなくあまり期待もせず読み始めたが、日常的な世界のごく普通の人々のささやかな営みの描写にリアリティーがあり引き込まれていく。表題の「銀の雪」との関わりは思いもよらない展開で明らかになる。 そして読み終わった後も、銀の雪がいつまでもいつまでも音もなく静かに降り続く静謐な世界が胸の奥深いところに無限に広がるような気がするのだ。 ともすれば煩雑で単調で閉塞感を否めないような日々の中で、新たな未知の圧倒的な世界に目を開かせてくれる本である。
	なし	てんびん座	抱く女/桐野夏生/新潮文庫	若い女性に	私の亡母が生きた戦中、戦後は恋愛結婚は普通のことではなかった。私の就職とほぼ同時に男女雇用均等法が施行された。物語の設定は1972年、学生運動の季節。 主人公は「男性に求められることに酔う」自分を含めた女性に疑問を持つ。平成、令和を経て、果たして女性はさらなる自由を手に入れたのだろうか。動画配信を聞くのが好きだが、様々な女性のおしゃべりを聞いていると、楽しそうに話している、彼氏に振られ精神が崩壊す前の人、オーバードースやリストカットがやめられない人等、とても辛そう。物語の時代から半世紀も経つというのに、ネットの中の女性は、相変わらず男性から求められることを自分の価値基準にしているように思える。私は若い女性に自分の価値を男性に決めさせないでと願う。一人になることを恐れないで欲しい。もって本を読んで欲しい。そしてその最初の一番が『抱く女』であってほしいと思うのだ。
	12608	おもち	人生の壁/養老孟司/新潮新書	人生の後半、更年期あたりから悩みがあったり行き詰まっている人、リセットしたい人	子育てや家事に追われて気づけば人生折り返し地点。若い頃は夢ややりたい事があっただけなのに、いつの間にか日々をこなすのに精一杯でした。自分の子供には「やりたいことを仕事にできるよう、努力しなさい」と言っているのに、自分は1%も実現できていない。 「仕事の本質は、目の前の穴を埋めることです。穴が空いていたら、困る人がいるだろう。だから埋める」という著者の言葉に救われました。こんな自分にも価値がある、と思わせてくれる一冊です。ミドルクライシスの人……ぜひ読んでみてください。
	15357	小百合	鼓動/葉真中颯/光文社	社会派ミステリーを読みたい人へ	圧巻。引きこもりを題材にした作品の中で過去イチ良かった。 物語は、長い引きこもり生活の末に罪を犯した草鹿秀郎と、事件の真相を追う刑事・奥貫綾乃の視点で交互に語られる。 たらればを言ってもしょうがない。だが、中学時代のいじめがなければ…。 就職氷河期のタイミングと重なってなければ…。一人でも彼の存在を肯定する人がいたら…。 何かが少しだけ変われば彼の人生は全く違うものになっていただろう。 引きこもり問題を深く掘り下げた社会派小説であるが、上質なミステリーでもある。 ラスト二頁で彼の想いが胸に迫る。余韻冷めやらぬ読後。
びぼちゃん賞	なし	法幸	校注 花傳書(風姿花傳)/世阿彌 /わんや書店刊	テレビバラエティ番組ばかり見る人	その昔、数学者岡潔は、「3S(スポーツ・スクリーン・セックス)が日本を滅ぼす」と警告した。それから半世紀、今や、「3S」に「酒食」を加えた「4S」の伝説襲来大洪水でテンヤワンヤ日本古来の「わび」「さび」「色け」「つましき」は片隅に追いやられ、青息吐息である。 「中世町時代の能楽書『花伝書』は、現代人になじみのない古文で、お経に似てチンプンカンプンであるが、繰り返し唱えていると不思議に懐かし、何か魅かれる「調べ」や「響き」がある。テレビのバラエティ番組のバカ笑いは、決して味わえない心の「ゆとり」や「いやし」に目が冁める。 「天の岩戸」神話の「お神楽」に始まる「能楽」—その生き様の極意を、世阿彌は、「秘すれば花、秘せねば花なるべからず」と「なぞ」の言葉を残した。サルがラッキョの皮をむくような、「4S」探求に戦々汗々とする現代世俗「風姿」を戒める名言である。
	なし	八千代	永遠平和のために/イマヌエル・カント 訳:池内 紀/集英社	16歳以上 世界中から戦争がなくなるようにと願っている方	あの哲学者カントさんの平和論です。200年以上も前なのに、全く古めかしくありません。今に通じるのです。とにかく、読みやすいのです。小さい本(B6サイズ)で、文章は短く薄い本。始まりは、カントと現代の写真家4人のコラボで写真集のような感じ。私は同郷の写真家が載っていたから手にしました。そして「平和論」に引き込まれ、現在の世界の状況を考えさせられました。2024年のノーベル平和賞は日本被爆者団体協議会が受賞しました。授賞式での田中照巳代表委員の講演に感銘を受けながら聞いていました。そのうちにつぎのような話をされました。「原爆被爆者の現在の平均年齢は85歳。10年先には直接の被爆者としての証言ができるのは数人になるかもしれません。これからは、私たちがやってきた運動を、次の世代の皆さんが工夫して築いていくことを期待しています。」若い皆さんにこの運動を託されたのです。その時に、この本を思いだしました。
	8045	やっすー	AX アックス/伊坂幸太郎/角川文庫	読書をあまりしたことがない人 伊坂幸太郎の本を読んだことがない人	本を読んでいて登場人物が多いと内容を把握するのが難しくなると私は思います。 この本は登場人物が多くないのでわかりやすいです。 チャプターごとに登場人物の名前が書いてあるので誰の台詞なのか場面展開してもわかりやすいです。 「兜」(主人公)は妻と子供の3人家族 文房具の営業を仕事としているが裏の顔として殺し屋をしている。殺しの依頼はある病院に通院して医者から処方される。 陰語での会話がおもしろい。スゴ腕の殺し屋なのに恐妻家。 常に奥様の機嫌を損ねないように行動しているのが笑えます。殺しが出てくるのにほんわかします。 伊坂幸太郎の魅力が満載です。同じ人物が登場するグラスホッパーやマリヤビートルもあわせて読みたいかなりますよ。
	9497	幹雄	幸せの本質 一生涯続く笑顔あふれる人生のつくりかた/Honami(ほなみ)/株式会社KDOKAWA	仕事と生き方に悩んでいる人へ	ふと浮かんだことには絶対に意味がある。浮かんだらすぐに行動することが重要でひらめきには鮮度がある。これが実践できるとシンクロシティ(意味のある偶然の一致)が多くなる。大好きな人とのリアルな触れ合いが無ければ幸せを感じ取れない。 一人で考え込まずとどろん行動して、経験を積み重ねてみる。アンテナを張りながらいろんな人に出て感じる必要がある。今に集中して、行動を続けることで道は開けていく。心身が健康であるために手放してもいい考え方 ①完璧主義をやめる ②こうしなければならぬ・こうすべきであるという考えを捨てる ③他者と比較しない ④もう過ぎってしまった過去にこだわらない 頭に浮かんだひらめきのすべてが、夢の実現に向かっている

受賞	会員番号	ペンネーム(敬称略)	本の題名/著者/出版社	どんな人に	おすすめポイント
優秀賞	13152	二月うさぎのお茶会	母の待つ里/浅田次郎/新潮社	母との関係に悩む人へ	おそらく他に推す人がいるであろうことを承知の上であえてお勧めしたい一冊である。最初の出会い、夏の終りにNHKで放送されたドラマである。一見なつかしい親子の再会の物語のようであるが、次第にざらざらとした違和感を醸し出していき、そのあまりにも残酷な結末に自分も呆然と立ちすくんでいるような気がすると共に、それほど遠くはない将来に実現するであろう恐怖を感じずにはいられなくなった。早速図書館で借りて表紙を見て更に驚く。コートを着た男性の姿が主人公を演じた中井貴一さんにそっくりではないか。再放送される前にPR番組があり、インタビューで「浅田先生が『いつかこの作品が映像化される時が来たら松永徹は是非とも中井さんをお願いしたい』と仰っていた」と述べられており、何とも羨ましい限りであった。浅田次郎の作家力を存分に味わえる一品。
	13094	修実	函館 歌と文学の生まれる街/吉岡栄一/アルファベータブックス	60歳以上の人に読んでほしい	最近中山美穂さんが亡くなり、話題になっていますが、元夫で芥川賞受賞作家の辻仁成が函館の高校を卒業したことを思い出してこの本を紹介しします。また親子二代で紅白歌合戦に出た歌手の親父が瀬川仲で函館商業高校出です。命くないの歌でミリオンセラーの大ヒットとなったその人が次女の瀬川瑛子です。函館の青柳町こそかなしければ悲しいことではなく、愛してあり切ないほどとおしいという意味です。ちなみになかなか悲しいことではなく、愛してあり切ないほどとおしいという意味です。また異色の作詞家川内康範や千の風になっての作詞家新井満も函館の近くの大沼公園近くに住んでいました。Gladyの出身地も函館です。4年一度函館での公演では、4万以上のファンが全国からかけつけます。60年安保の全学連委員長の高橋健太郎は、函館東高校で私の同期です。作者の佐野真一にアドバイスをした文面が単行本に紹介されています。現在の函館市長は、大泉洋の兄です。
PIPO特別賞	15394	ゆたんぼ	逆転美人/藤崎翔/双葉文庫	ハラハラドキドキしたい人、スリルを求める人	飛び抜けた美人であるがゆえに、次から次へと不幸に見舞われる人生を歩んでいく女性を主人公とした物語です。最初はほんとうに不幸な話のオンパレードで、気の毒に思いながら読み進めていくと、「最後どういう結末になるんだろう?」と思い始めたあたりであっという間に驚くような劇的な展開が訪れます。「え?そうだったの?」とこれまでの経緯を振り返り、「ふんふん」と納得したところでいよいよ最後のトリックが明かされます。半信半疑ながら自分の目で確かめてみると、確かに前代未聞の天才級トリックが隠されていることに気づかされます。その演出に最後「ブラボー!」と拍手を贈りたくなるような作品であり、ジェットコースターに乗った時のような興奮と、映画を見終わった後のような満足感と感動で幕を閉じる、たいへんスリリングで心躍る素晴らしい作品です。
	5652	ひろし	人生が変わる365日の名言/週刊現代編集部/編/KODANSHA	生き方に悩んでいる人	本書は芸能、スポーツ、政治や経済の第一線で活躍した人たちが、思いをもって口にしたものです。一日一ページの短い文章の中にキラリと輝く人生哲学が、つづられています。その中で特に感銘したものを列記したい。 ・余命を見つめれば、本当に大切なものが見つかる。 ・孤独であることを前向きに捉えられる人は強い。 ・悲運が人間に深みを与えてくれることもある。 ・最後は本当に大切な人とつながっていればいい。 ・個性は作るものではなく、自然とじみ出るものだ。 ・大切な人やものを失っても、喪失が成長の糧になる。 ・健康になる秘訣。それは生きるための強いモチベーションを持つことだ。 ・運命を呪っても何も生まれない。それを悟った人間だけが成長できる。 本書を読めば、たくさんの方たちの人生経験のエッセンスを「つまみ食い」することができます。それは今後のあなたの人生への励みとなり、あらたな希望が生まれることでしょう。
	なし	ラブちゃん	小さいことにくよくよするな!しよせん、すべては小さなこと(絵本)/リチャード・カールソン 訳:小沢瑞穂 絵:大石暁規/サンマーク出版		元は母の愛読書で母からもらった本ですが、ちょっとしたことでくよくよ悩んでしまったり、誰かと一緒にいても疎外感を感じて、心が苦しくなった時、この本を手に入れます。本を開くとまず、各ページの色合いと絵が心を落ち着かせてくれます。内容は 1、今を生きよう2、今いる場所で、幸せになろう3、人生を愛で満たそう の3章50項目に分かれていて、好きな所を読めます。英語を訳された文ですが、英語も一部書かれていますので英語的な感覚も感じることができます。読んでいるうちにだんだん悩んでいる事が小さく思えてきて、心がスーッと軽くなり勇気をもらえて、なんだか元気になるので忘れたころにまた読みたくなる一冊です。
PIPO特別賞	94	てんこ	古本食堂/原田ひ香/ハルキ文庫	本が大好き(ジャンル問わず)そして、食べる事が大好きな人。に。人生いろいろ!	東京、神保町で古本屋を営んでいた兄が急死し、北海道に住んでいた妹が古本屋を継ぐことになった。オバサンが一人で上京し、心細いところへ血縁関係のある国文化の大学院生がバイトに入ってくれる。なんと彼女はこの古本屋によく通っていた。ここに訪れる客と店主、彼女とのやりとりで出てくる数種の本の多種多様なこと!そしてその本との関わりで変化していく人間模様は、いろんな世代に向けられている。登場する有名なお店や食べ物なども興味深く食べたくてしまう! 読んだことのない本(ほとんど)は手に取って読んでみたくなる。最後は世相が入った、“ちょっとした”どんでん返しのなところもあり面白かった。神保町を訪れて散策してみた〜!
	6071	じゅげむ	同調圧力〜日本はなぜ息苦しいのか〜/鴻上尚史・佐藤直樹/ 講談社現代新書	都知事選、衆院選、兵庫県知事選などのプロセス・結果に「はて(?!?)」と思いきやモヤモヤしている人	思えばコロナ禍のただなかの日本の感染症対策は奇妙なものだった。ロックダウンも命令もなく、連日連夜にわたって「外出自粛」「休業要請」などが呼びかけられた。それでも国民は唯々諾々と従った。なぜか。それを読み解く鍵が「世間」であり「同調圧力」であると本書は強調する。津々浦々にまるで「島宇宙」のように点在する世間によりいわば相互監視システムが生まれ、おのずと自主規制の気運が高まるというわけだ。世論とセットの同調圧力はさらに「ネット世論」ともいうべき独特の空気をも醸成する。『「正義の言葉」をかざして差別と排除に染まっていく。』『強いもの、より勢いのあるものに乗っかる』『人を見極める能力がない』『SNS上でデマが流されたとしても(中略)自分の『世間』に属する人の情報だったら、それだけで信じちゃうんですね、、、。兵庫県「直直し」県知事選の結果がいまだ腑に落ちない人に、本書の一読をすすめる
PIPO特別賞	なし	JUN	日露戦争帝国日本最後の戦い/ 麻田雅文/中公新書	太平洋戦争を知らない(未体験)世代と終焉期世代(70代後半から80代が軸)に読み知ってほしい。	1855年2月7日(安成元年12月21日)当時の徳川幕府と調和された「日露通好条約と調印」。この後1875年2月7日「樺太・千島交換条約」により、樺太はロシア。日本は千島列島を領有する。さらにその後、日清戦争(1894年)。日露戦争(1904年)を経て太平洋戦争に継ぐ。時は太平洋戦争終結(1945年8月15日)を区切りとしているが、連との戦間は少なくとも9月の中旬までおよび千島列島最北端にある占守島激戦は多くの戦死者と民間人(アイヌ・朝鮮・白系ロシア人)が犠牲となった。現在の中東、欧州に目を向け人は何を学ばなければならないか、を今あらためて自問する機会として欲しい!
びぼちゃん賞	9496	ジョイ	神様の定食屋1-4巻/中村楓希/双葉文庫	老若男女全ての方へ	一杯の「食」を通じて亡くなった方と生きている人を繋ぐ物語。その架け橋をする主人公の、人として調理人として成長して行くストーリー。食の教、或いはそれ以上に多種多様に色んな人間関係があるなど、この小説を読んでつくづく思う。登場人物達の抱える後悔が、食を通して晴れて行く所は、この小説の醍醐味だと思う。コミカルに登場する「神様」も長まり過ぎずに身近に感じられて面白い。読み終えた後、心も身体も満足する(温かくなる)事、間違い無し。秋の夜長一気読みで寝不足にならないよう注意!
	341	みんと	星を掬う/町田そのこ/中央公論新社	母娘の関係に悩んでいる人	幼い頃母親に捨てられ、自分のひどい境遇は母親のせいだと思っている主人公千鶴が、若年性認知症を発症している母親の聖子と再会し、一緒に住むことになり、自分を見つめ直していく物語です。物語の中にはいくつかな言葉が出てきます。「自分の人生は、自分だけのもの。よ。誰かのために無駄に消費しちゃだめよ。」。これは母親の言う通りに生きてきた聖子が自分の娘には自由に生きてほしいと願ってかけた言葉です。この言葉聞いて、私自身もどうなのかわかえさせられました。不満だったことを人のせいにして生きてこなかったか。母親と言う言葉がありますが、親のことをそう思っている人が読んだら何か答えが見つかるかもしれません。また親の認知症がひどくなっていく様子も描かれ、介護が大変な状況の中でも光が見える瞬間があるのだと気がかりがありました。
	15064	よっしー	死ぬまでに観に行きたい世界の有名美術館を1冊でめぐる旅/山上やすお/ダイヤモンド社	海外旅行や美術館が好きな人	装丁が美しく手に取った瞬間、テンションがあがる本で、海外旅行が好きな人、美術館が好きな人にオススメしたい本です。美術館に興味なくてもカフェでパラパラ眺めるだけでも優雅な時間に浸れる素敵なお本です。本の内容は著者が海外旅行の添乗員をしてさらに芸芸の資格を持つ美術オタクと称しているので、一度は見たり聞いたことがある有名絵画の見どころを深掘り出来て、現地の美術館でガイドを聞いているような臨場感があります。また有名絵画がある美術館の国や街の情報、添乗員ならではのオススメスケジュールが載っているので、ここでランチかあなイメージがふくらみます。私は、パリのオルセー美術館に行って印象派の絵を観てみたいです! 皆さんも観てみたい絵、行ってみたい国をこの本で見つけて見ませんか?
	なし	ムー	きょうのおやつは/わたなべちなつ/福音館書店	破られない仕掛け絵本をお探しの方	可愛い猫ちゃんと一緒にホットケーキを準備していく仕掛け絵本です。この絵本には紙が飛び出したり、めくったりする仕掛けはありません。でも初めて本を開いた時、お子さんの目、そして一緒に読む大人の目もキラキラ輝く仕掛けがあります。おやつ作り中のたぐさんのオノマトペもユニークで可愛らしいです。お手伝いができる年齢のお子さんをお持ちの方は、絵本にそって一緒におやつ作りをしてみるのも楽しいかもしれません。「絵本の仕掛けを破れちゃった!」という経験をお持ちの方に是非手に取っていただきたいです。
	なし	ムー	ちょっとだけ/瀧村有子/福音館書店	これからお子さんが増える方、1人遊びができるようになったお子さんをお持ちの方	「ちょっと待ってね。」今まで何回言っただろう この絵本を読んで、赤ちゃんとの生活に慣れてきてしまっている自分にハッとしました。初産と猛暑を乗り越えて、ようやく近所への散歩が出来るようになった頃に出会った絵本。下の子が生まれたばかりのなつちゃんが、お姉さんになろうと必死に「ちょっとだけ」を積み重ねるお話です。子供の腰が座ってからは、サークルの中で一人で遊べる時間が増えてきて、その横で家事をするようになりました。少しぐずったり甘えてくれても、キリの良いところまで片付けたくて「ちょっと待ってね」と言ってしまう。子供の「ちょっとだけ」ってどのくらいなんだろう。まだ上手く喋ることのできない赤ちゃんの気持ちも、この絵本に描かれている気がします。きょうだいの育児をされている方はもちろん、1人目の育児をされている方もぜひ読んでほしい一冊です。読んだ後は、お子さんをいっぱい抱きしめてほしいです。
PIPO特別賞	11550	J	猫を処方いたします。/石田 祥/PHP文芸文庫	悩みやストレスで心が疲れている人に読んでほしいです。	この物語は、京都にあるメンタルクリニックが舞台です。必要な人がたどり着くことができる、不思議なクリニックです。京都弁で話すちょっと怪しげな先生が処方してくれるのは猫。猫を患部に貼ってみたい、1週間服用してみたい。あまりにも奇抜な診察に、不信がっていた患者さんもいつの間にか悩みが解決していきます。私自身、猫が好きなので、まずはタイトルに惹かれて手に取りました。様々な猫が登場して、「猫ってそうだよ」という場面も多いので、特に猫好きの方にはオススメです。でも、猫は苦手という方も、「猫もいいかも」と思わせるかもしれません。そのくらい、猫が魅力的に描かれています。また、オムニバス形式になっていて、患者さんごとに話が完結していく短めのお話なので、まとまった時間が取れないという方もさっと読めます。そして、登場する患者さんと一緒に、いつの間にか心が軽くなっていくような感覚が味わえます。ぜひ手に取ってみてください!
	15809	健治	すべては導かれている/田坂広志/PHP文庫	日々の仕事での苦勞 貧しい生活での困難 挑戦した事業での失敗 競争社会における敗北 抱いた夢が破れた挫折 愛する人を失った喪失 医者も救えない重い病氣 人生を損ねるほどの事故	いま逆境の真っ只中をまがいている、あなたに是非読んでほしい一冊です。その逆境を乗り越える言葉、「それはすべては導かれている」この言葉を心の中で唱えることでその瞬間から何か大きく変わります。その言葉を「覚悟」として心に定めたならばその瞬間から、人生の風景が一変します、そして心の奥底から目前の逆境を超えていくための力と叡智が湧き上がってきます。こんな書き出しで始まる本文は、我々の人生を導く「大いなる何か」の存在を「信じる」ことにより自らの中に眠る力と叡智を引き出し、人間としての可能性を開花させ、逆境を乗り越え、人生を拓いていく術を、著者自身の体験から「不治の病からいかに這い上がってきたか」を熱くかたられていきます。著者は科学技術者であり、リアルに現実を観察しての論考は全編を通じて科学的根拠に導かれており、長い歴史の中で優れた先人たちもまたその存在を何度読んでも感動する一冊です。
	14201	法華	書籍修繕という仕事/ジェオン 訳:牧野美音/原書房	手芸、工作、機械いじりなど 黙々と手を動かすことが好きな方、職人への憧れがあるかたにおすすみます。	著者は、アメリカに留学して書籍保存研究室に勤めながら専門知識と技術を身につけ、韓国に戻って個人開業したそうです。文章全体の印象はちょっと堅めですが、きっと根っから職人肌で几帳面な性格なのでしょう。道具への愛や緻密な作業の場面がうかがえます。一方で、持ち込まれた本を隅々まで観察して得た印象や、依頼人とのやり取りのなかで立ち上ってくる自分自身の思いつきなどを率直に語り、楽しみながら仕事に取り組んでいる様子にはとても好感が持てました。わたしも紙という素材が好きなので、細かい分析描写に感心したり、巻頭カラーの修繕前後の写真には、じっくり見入ってしまいました。仕事との向き合い方に悩んでいる人にも、なんらかのヒントが見つかるかもしれません。
PIPO特別賞	なし	ぶくちゃんママ	聞く技術 聞いてもなにか出来ずに困っている人 身近な人に話を聞いてもらえず悩んでいる人	身近な人の話を聞くことがなかなか出来ずに困っている人 身近な人に話を聞いてもらえず悩んでいる人	人の話を聞くというのは話をする人の思いや考えを想像しながら聴くことだと思っていました。しかし作者は、聞くとは、言葉通りに受け止める事であり「聴く」よりも「聞く」の方が難しいと言っています。その言葉を聞いたときは何を言っているんだろう?と戸惑いましたが、本を読んで少しずつわかってきたような気がしました。人が話をしている時は言っている事をそのまま聞いてほしい「時であり「聞いて」と必死に話しています。しかし聞き手は何か言いたいのだろうか?と思ひ、話の内容の意図は何かを考えていることがあります。言葉通りに受け取ってもらえず苦しんでいる人が多く書いてあります。この本は人に話を聞いてもらう技術と聞く技術が分かりやすく書いてあります。ぜひ多くの人に読んで欲しいと思いました。
	5652	ひろし	百歳人生を生きるヒント/五木寛之/日本経済新聞出版社	自分の人生を総括したい人	生き方と逝き方。それが本書のテーマです。最近82才になる隣人から、「妻が認知症になったので、何かあったらよろしくたのむ。」と言われました。私も70代中ばとなり、常々考えることはあと何年健康で生きられるのだろうか、あと何年妻とともにこの生活を続けられるのだろうか、そう遠くない日になる最後の時はどんなふうなのだろうか、ということ。生き方と逝き方を考えながら、今という時間を大切にしましょう。年のせいか私は数十年前の幼少期、青年期の日々を思い浮かべると郷愁にひたっております。世のため人のために生きるのか、功なり名を遂げて、などという人生では決してありませんでしたが「一点のかけりもない澄み切った人生などありえない。」「今日まで生きてきただけで価値があるんだ。」という筆者の言葉に大いに励まされました。

受賞	会員番号	ペンネーム(敬称略)	本の題名/著者/出版社	どんな人に	おすすめポイント
	5652	ひろし	どうせ死ぬんだから/和田秀樹/SBクリエイティブ	老後の生き方に悩んでいる人	高齢者専門の精神科医として、30年以上にわたり高齢者医療の現場に携わってきた著者が、人生終盤の生き方を指南している。死ぬ時に後悔しない生き方の心得として ・自分が納得できる生き方を貫き通す。 ・楽しいことだけを考えて、自由気ままに暮らす。 ・うかつに医者言うことを信じない。 ・能と体を使い続けて、認知症と足腰が弱るのを防ぐ。 ・死を恐れれば恐れるほど、人生の幸福度は下がる。 ・人間関係が豊かなほど老いは遠のく。人づきあいが億劫になったらボケる。 ある程度の年齢になると生活や生き方が内向きになりがちだが、残り少ない人生、やりたいことをがまんしないでたのしんでほしい。
	なし	のぞみ	ここは退屈迎えに来て/山内マリコ/幻冬舎文庫	悶々としているティーンエイジャーの女の子	まるで私の物語なんじゃないかと思いました。私の高校の頃にこの本を読んでいたなら、今とは違った人生を生きていたのかな、と思います。(2012年刊行なので、とうていムリな話ですが) 高校生の私が読んだら、孤独なのは私1人じゃないんだと安心し、人生うまくいかなくてもどうにか大丈夫になるんだ、オナニーの話や友達とできるなんて、なんて素敵なんだろう。罪悪感を感じるのは私だけではなかったんだ、と感動したと思います。 ある田舎町の女性たちの話です。みんな色々ありますが、前を向いて自分の足で歩いていく所が好きです。 主役は誰かと聞かれたら、「椎名君？」いやいや違うでしょう。 悶々としているティーンエイジャーの女の子におススメします。笑えて安心してきて、勇気が出てくると思います。
	なし	こまつたちゃん	ねこのさんげんしよくもりのなかのレストラン/Hikaru/ニコモ	どなたでも	私はHikaruさんの作品の「ねこのさんげんしよくもりのなかのレストラン」という絵本を表紙の猫が小さな子が見た印象でかわいいかと思い、妹の孫にプレゼントしたいので中を読みました。おすすめのポイントは絵がアンティークで癒される色づかい。話しは、あかくんとみどりくんとあおくんという名の3兄弟が営んでいるもりのなかのレストラン。レストランの予約をしていたお父さん猫と子猫二匹もかわいかったです。ハンバーグランチの絵もきれいですし、こんなレストランが本当にあったらいいなあと思いました。その後「カアカア」というカラスの騒ぐ声であかくんが外に出てみるとカラスの足が網にひっかかっていたので、あかくんが絡んでいた足をはずしてあげました。あかくんの優しさに感動しました。急な風であかくんのコックの帽子が飛んでいって、あかくんの泣いた顔の絵は素敵でした。是非読んでもらいたい絵本です。
びぼちゃん賞	7884	のぶりん	正体/染井為人/光文社	スリリングな小説が好きな人	読み始めてすぐにこれはおもしろいと思った。読んでいる途中で映画化されて主演が横浜流星さんと知り、私が想像していたイメージにぴったりだと思った。殺人犯が自分の正体を隠して逃亡していくのだが、行く先々でしばらくすると周囲の人間に気づかれそうになり、ギリギリなところでなんとか逃げるのがとてもスリリング。気づくと「逃げて〜」とついつい犯人を応援してしまっている自分に少し驚く。読み終わって、ああ、おもしろかったと思った。そして考えさせられることも多いと思った。映画は少し内容が違うらしいのでそれも見てみたいと思う。
	なし	JUN	水と緑の国、日本/富山和子/講談社	水、林、農、従事者	北緯20°~50°、経度120°~150°内にすべて水(海)に囲まれ山紫水明な日本。有史以前から今に至るまで綿々と続く緑。その中心を探っていった先に稲作文化がある。何故今この四季豊かな日本が育まれてきたのは何か。その中心を探っていった先に稲作文化がある。その軸のひとつに視点を置きまとめられたのが本書。当著は和、英併記で自然も織り交ぜカラー化されている。他にも「水と緑と土：伝統を捨てた社会の行方」・中公新書。「水の文化史」・文藝春秋社(いずれも新書版)がある。いずれも蔵書に値する良書であり、繰り返し読み直すことで未来志向の一助としたい。